

マルチルーティングの設定について

マルチルーティング機能を使うと、設定した条件によって接続先を変更することができます。FT3000R-APには、以下の3種類のマルチルーティング機能があります。

1. パソコンごとに別々のプロバイダを利用する（ソースアドレスルーティング機能）
2. 目的ごとに別々のプロバイダを利用する（ポートルーティング機能）
3. 課金単位でプロバイダを切り替える

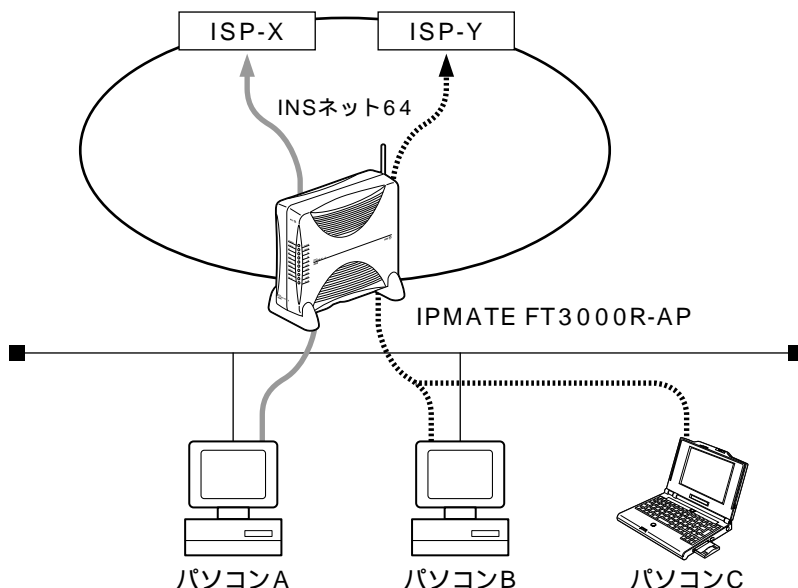
これらの機能は、組み合わせて利用できます。

1. パソコンごとに別々のプロバイダを利用する（ソースアドレスルーティング機能）

パソコンのIPアドレスごとに接続先を変えることができます。例えばパソコンが複数台あって、それぞれ別のプロバイダに接続したい場合、FT3000R-APのソースアドレスルーティング機能を利用すると便利です。

設定例

パソコンAはプロバイダX（ISP-X）へ、パソコンB、CはプロバイダY（ISP-Y）へ接続



マルチルーティング情報を設定する(ソースアドレスルーティング)

設定例

ネットワーク名 (internet) の下の「接続先情報」として、プロバイダX (接続先名: ISP-X)、プロバイダY (接続先名: ISP-Y) がすでに登録してある場合

1 詳細設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。

「相手情報設定」ページが表示されます。

2 [ネットワーク情報一覧] で「internet」欄の [修正] ボタンをクリックします。

「ネットワーク情報設定」ページが表示されます。

3 [接続先一覧] で接続先「ISP-X」欄の [修正] ボタンをクリックします。

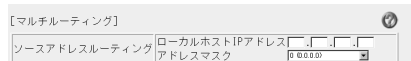
「接続先情報設定」ページが表示されます。

4 [マルチルーティング] の「ソースアドレスルーティング」情報を設定します。

5 パソコンごとに利用時の設定を行います。

[ソースアドレスルーティング情報] で以下の項目を指定します。

- 接続するパソコンのIPアドレス
- アドレスマスク



6 [更新] ボタンをクリックします。
「接続先情報設定」ページが表示されます。

7 [更新] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」ページが表示されます。

8 [更新] ボタンをクリックします。
「相手情報設定」ページが表示されます。

9 [更新] ボタンをクリックします。

10 [設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

この例では、指定したプロバイダごとに接続するパソコンをローカルホストIPアドレスで切り分けます。

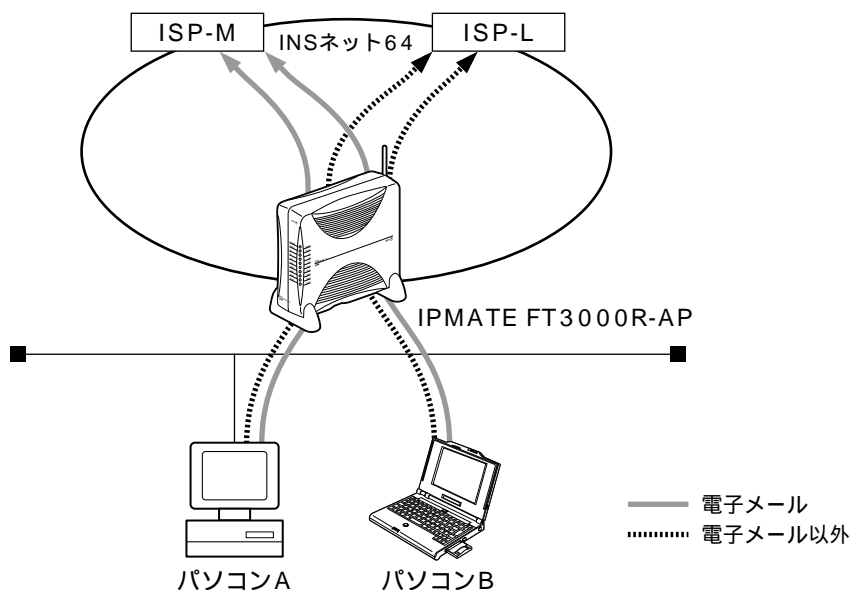
2.目的ごとに別々のプロバイダを利用する（ポートルーティング機能）

インターネットで利用するアプリケーション（WWWブラウザ、電子メールなど）ごとに接続先を変えることができます。

例えば電子メールはプロバイダM（ISP-M）で、WWWブラウザはプロバイダL（ISP-L）で利用するといったことが可能です。

設定例

電子メール利用時はプロバイダM（ISP-M）（メールサーバホスト名：mailhost.provider.or.jp）へ、電子メール以外はプロバイダL（ISP-L）へ接続



お知らせ

ポートルーティング機能を利用するには、ProxyDNSを使う設定にする必要があります。

「IPMATE FT3000R-AP取扱説明書」（P106～108）を参照してください。

マルチルーティング情報を設定する (ポートルーティング)

設定例

ネットワーク名 (internet) の下の「接続先情報」として、プロバイダM (接続先名: ISP-M)、プロバイダL (接続先名: ISP-L) がすでに登録してある場合

1 詳細設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。

「相手情報設定」ページが表示されます。

2 [ネットワーク情報一覧] で「internet」欄の [修正] ボタンをクリックします。

「ネットワーク情報設定」ページが表示されます。

3 [接続先一覧] で接続先「ISP-M」欄の [修正] ボタンをクリックします。

「接続先情報設定」ページが表示されます。

4 [マルチルーティング] の「ポートルーティング」で [追加] ボタンをクリックします。

「ポートルーティング情報設定」ページが表示されます。

5 電子メール利用時の設定を行います。

[ポートルーティング情報] で以下の項目を指定します。

- ポート番号 -POP3
- サーバホスト名 -mailhost.provider.or.jp (プロバイダMから提示されたメールサーバホスト名)



6 [更新] ボタンをクリックします。
「接続先情報設定」ページが表示されます。

7 [更新] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」ページが表示されます。

8 [更新] ボタンをクリックします。
「相手情報設定」ページが表示されます。

9 [更新] ボタンをクリックします。

10 [設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

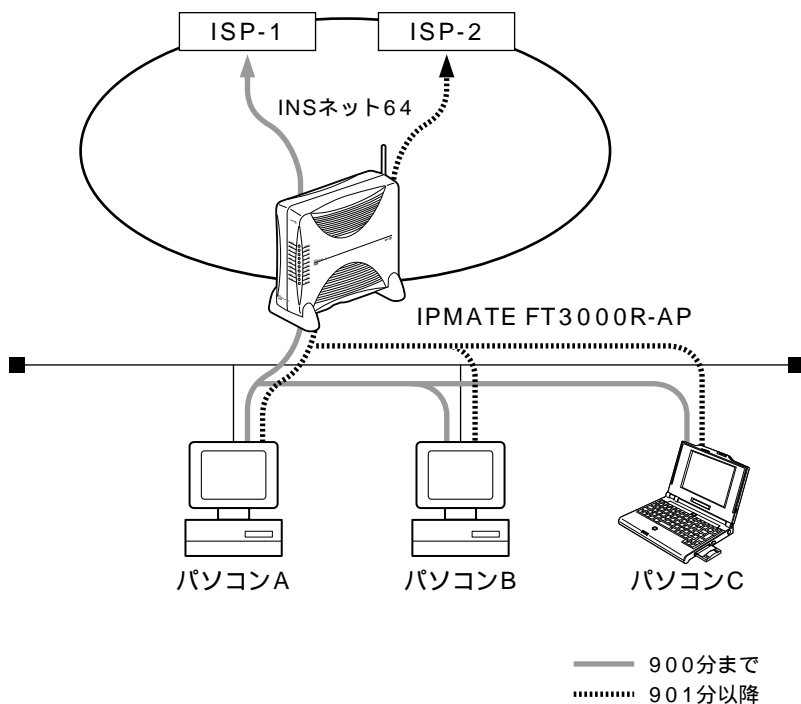
この例ではサーバホスト名で設定した以外のDNSへの要求は、ISP-Lに発信します。

3.課金単位でプロバイダを切り替える

複数のプロバイダに加入していて、プロバイダのサービスによって通信料金の算定方法が異なる場合、プロバイダを有効に使い分けることができます。

設定例

900分まではプロバイダ1 (ISP-1) へ、901分以降はプロバイダ2 (ISP-2) へ接続



2つのプロバイダ（プロバイダ1、プロバイダ2）に加入していて契約が以下のような内容の場合

プロバイダ名	基本料金	追加料金
プロバイダ1	2,000円（接続時間900分まで）	10円 / 3分（接続時間901分以降）
プロバイダ2	970円（接続時間600分まで）	10円 / 分（接続時間601分以降）

1か月に20時間（1,200分間）インターネットを利用すると、プロバイダに支払う料金は以下のようになります。

- プロバイダ1だけを利用

$2,000\text{円(プロバイダ1の基本料金)} + 1,000\text{円(プロバイダ1の追加料金)} + 970\text{円(プロバイダ2の基本料金)} = 3,970\text{円}$

- プロバイダ2だけを利用

$2,000\text{円(プロバイダ1の基本料金)} + 970\text{円(プロバイダ2の基本料金)} + 6,000\text{円(プロバイダ2の追加料金)} = 8,970\text{円}$

- プロバイダ1を900分利用し、プロバイダBを残り300分間利用

$2,000\text{円(プロバイダ1の基本料金)} + 970\text{円(プロバイダ2の基本料金)} + 0\text{円(追加料金)} = 2,970\text{円}$

このような使い方をすると、プロバイダに支払う金額はそれぞれのプロバイダの基本料金2,970円だけで済みます（どちらかのプロバイダを解約するよりも安くなります）。
この場合を例に設定方法を説明します。

通信条件

- 接続時間900分までプロバイダ1（ISP-1）を利用する
- 接続時間901分以降はプロバイダ2（ISP-2）を利用する

メインに使用するプロバイダの制限時間を指定する

設定例

ネットワーク名 (internet) の下の「接続先情報」として、プロバイダ1 (接続先名: ISP-1)、プロバイダ2 (接続先名: ISP-2) がすでに登録してある場合

1 詳細設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。

「相手情報設定」ページが表示されます。

2 [ネットワーク情報一覧] で「internet」欄の [修正] ボタンをクリックします。

「ネットワーク情報設定」ページが表示されます。

3 [接続先一覧] の接続先 [ISP-1] の優先順位が「1」でない場合は、移動先の優先順位に「1」を入力し [移動] ボタンをクリックします。すでに優先順位が「1」になっている場合は、手順4へお進みください。

4 [接続先一覧] の接続先 [ISP-1] 欄の [修正] ボタンをクリックします。

[接続先情報設定] ページが表示されます。

5 [マルチルーティング] で以下の項目を指定します。

- 接続時間 指定した時間を超えて接続しない / 15時間 (900分)

[マルチルーティング]	
ソースアドレスルーティング	ローカルホストIPアドレス アドレスマスク
ポートルーティング	ポート番号 / サーバホスト名 修正 / 削除
接続制限	<input type="checkbox"/> 指定した時間を超えて接続しない [時間] 時間 <input type="checkbox"/> 指定した課金を超えて接続しない [課金] 課金

6 [更新] ボタンをクリックします。

[ネットワーク情報設定] ページが表示されます。

7 [更新] ボタンをクリックします。

[相手情報設定] ページが表示されます。

8 [更新] ボタンをクリックします。

9 [設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。



お知らせ

接続先には優先度があるため、マルチルーティングの設定をしない接続先の優先度を高くすると、優先度の低いマルチルーティングの設定は無効となります。接続先の優先順位に気をつけてください。

回線切断されるまでは接続制限処理が行なわれないため、900分を超えてプロバイダに接続される場合があります。

本装置の電源を切ると、課金情報 (通信時間累計、通信料金累計) はすべてクリアされます。